

平成 28 年度 ASEAN 向け省エネ支援事業の初回会合を実施しました

【事業概要】

一般財団法人省エネルギーセンターは、経済産業省の委託（国際エネルギー使用合理化等対策事業・省エネルギー人材育成事業）を受けて、2016年8月9日～12日の4日間、インドネシア・ボゴールの初回会合で本年度のAJEEP(ASEAN-JAPAN Energy Efficiency Partnership) 事業計画・取組み内容等を説明し、ASEAN各国と今年度事業実施内容の討議を行ないました。

- (1) 新スキーム2は、エネルギー管理士育成・判断基準導入に向けた事業（4ヶ年）を開始すること
- (2) スキーム3は、カンボジア・ラオスを対象にS&Lを含めて継続支援すること
- (3) EMTIPS(Energy Efficiency Market Transformation with Information Provision Scheme) は平成27年度をもって事業を終了し、必要に応じて2国間事業に含めて実施すること



オープニングスピーチ（インドネシア・タイ・日本・ACE(ASEAN Centre for Energy)）



討議風景



集合写真

「平成28年度のASEANに対する省エネ人材育成事業」の具体的な活動実施計画作成のための会議（インドネシア・ボゴール）に参加した。会議にはASEAN各国（4カ国代表は不参加）からASEAN省エネルギー部会（EE&C-SSN）の代表（Focal Point 又はその代理）及びACEが参加し、本年度の実施計画を決定しました。

- (1) スキーム2のエネルギー管理士育成事業内容に関して、各国ニーズが強いことから熱心な意見交換が行われ、事業目的と内容について理解されました。
- (2) スキーム3については、カンボジアとラオスを対象に、両国の省エネの実現に向け、各国の省エネ制度等制定に向けたアクションプランの進捗確認と省エネ推進における課題を明確化することを提言し、合意されました。
- (3) EMTIPSは、27年までの2年半の活動を通じて、ASEAN内での制度調和に向けての制度的課題・改善事項の情報共有や改善実施事例など一定の成果を収めたことをもって事業を終了し、S&L制度未整備の3カ国；カンボジア、ラオス、ミャンマーについては、必要に応じて二国間事業で継続支援することが了承されました。